

色彩教育のための組み立て式ツールの制作

Production of Prefabricated Tools for Color Education

小川 直茂 / Naoshige Ogawa

岐阜市立女子短期大学 / Gifu City Women's College



「Hue Torus」

素材：紙

寸法：W180 × D180 × H63mm

制作：2011年

1. はじめに

人間が受け取る様々な視覚情報の中でも、「色彩」はきわめてなじみの深い存在である。しかしながら、色彩に関する理論面の学習は美術・芸術系大学や専門学校など一部の専門的な教育機関で実施されるのみで、社会全体において十分な教育体制が敷かれているとはいえない。

色彩に対する見識の不十分さは、美しさや心地よさを損なう不適切な色彩環境形成の要因にもなり得る。手のひらサイズのモノから広大な都市計画に至るまで「人間の手によって形づくられる色彩環境」に対しての配慮が求められる昨今、適切な色彩環境を構築していくためには、色彩がどのような特性を持ち、どのような物理的・心理的効果をもたらすかについて社会全体の理解度を高めることが重要である。そのための具体的な切り口として、教育機関における色彩教育の体制拡大は有効な手法であると考えられる。

2. 作品概要

本作品は、将来的な色彩教育の拡大に向けた一提案として、色の3属性のうち「色相」をテーマに制作したトラス状のペーパークラフトである。展開図は [図1] のようになっている。

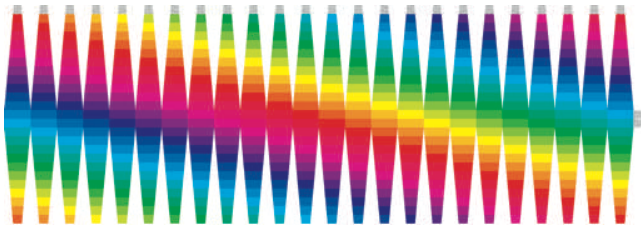


図1: 作品展開図

本作品は展開図の水平方向と垂直方向に、それぞれ色相環の規則に準じた単色のブロックを隣接して配置している。作品を組み立てることによって、作品表面に複数の色相環があらわれ、色相の特徴の一つである連環性を直感的に把握することができる。またトラスの内側で向かい合ったブロックの色同士が補色になることから、各色相の近さ・遠さについても同時に確認することができる。

色相環を構成するブロックの数については任意で設定することが可能であり、イニシャルモデルにおいてはPCCSの色相表現方式を採用して24色相で構成した。

本作品は、初等／中等教育での授業やワークショップ型の公開講座などの場面で、受講者自身が組み立てるタイプの教材としての利用を想定している。色相の性質を情報として伝達するだけであれば従来の色彩教育用テキストで事足りるが、工作による作品づくりを通して色彩関連の知識を学ぶことによって、色彩に対する印象的な理解を促す効果が期待できる。また同時に普段なじみのない色彩分野と色彩教育に対する関心を向上させることも意図している。

3. ワークショップの実施および考察

2013年12月21日に岐阜市立図書館分館ファッションライブラリーで行った公開講座「生活デザイン講座 色の不思議

議」において、本作品を教材として用いたワークショップを実施した [図2]。なおワークショップでは、参加者の工作技術の個人差に配慮して、色相数を12色相に減らすなどして組み立て手順を簡略化したモデルを別途設計して使用した。

講座の参加者は12名で、色彩について専門的な知識を持たない人が大半を占めた。ワークショップ終了後のヒアリングでは「赤、青、緑などの（色相の）概念は知っていたが、それらの色同士に規則的な関係があることを初めて知った」「作品づくりを通して色相の法則を分かりやすく知ることができた」「色が華やかでインテリアアイテムとしても飾っておきたくなる作品で、楽しく制作できた」などのコメントが寄せられた。目標としていた色彩特性の理解促進や色彩分野への関心向上について、一定の成果があったものと考えられる。

組み立て性については貼り合わせによる円環作成の工程が少々難しく、時間がかかったとの意見が多かったことから、さらに検討の余地があると思われる。



図2: ワークショップの様子

4. おわりに

一連の制作およびワークショップによる検証と考察を踏まえ、本作品の改善モデルの検討をはじめ、引き続き色彩教育の普及と拡大に向けた取り組みを考えていきたい。